



## TWISTとその関連語の意味分析

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2009-08-25 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 宮畑, 一範 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.24729/00009972">https://doi.org/10.24729/00009972</a>

# TWISTとその関連語の意味分析\*

宮 畑 一 範

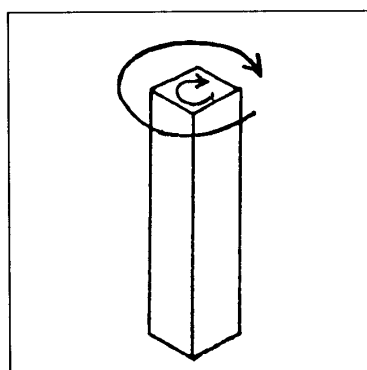
<kazm@lc.cias.osakafu-u.ac.jp>

本稿では、TWISTを中心に、若干の関連語も視野に入れて、その意味について考察を行う。TWISTの用例は、力を込めた円運動 [forcible turn] を共通の特徴とする2つの基本スキーマに大別できる。ひとつは、対象物そのものに対する円運動の加力、もうひとつは、対象物を取り巻く形での円運動（軸を中心とした周回運動）である。この2つのスキーマは、twister が表す「ひねりドーナツ」と「つむじ風」にそれぞれ端的に具現されていると考えられる。また、円運動加力の様を図示する際、我々は無意識のうちに対象物に対して周回状の線（矢印）を描くが、これはまさに円運動加力と周回運動という2つのスキーマ間に密接な認知的関連性があることを物語っているものと思われる。

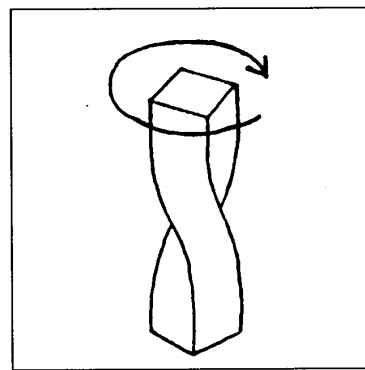
円運動加力のTWISTは、WRENCH、WREST、WRINGの3語と、また周回運動のTWISTは、TWINEと対比しながら、類似点と相違点をそれぞれ明らかにしていく。

## 1. 円運動加力のTWISTとWRENCH、WREST、WRING

これらの4語は、いずれも円運動系の力を加えること([forcible turn])を共通項とするが、この中ではTWISTが一番中立的であり、従って、意味領域が最も広い。対象物に対して円運動加力を行った場合、対象物の特性（可動か否か）により、2パタンの変化が想定され得る。ひとつは、対象物そのものが回転するというもの（[図1]）、もうひとつは、対象物にねじれが生じるという変化（[図2]）である。



[図1]



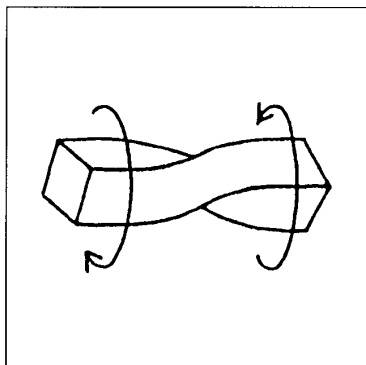
[図2]

---

※ 本論は、日本語学会第121回大会（2000年11月25日～26日、名古屋学院大学）における口頭発表に加筆、修正を加えたものである。口頭発表の際、有益なコメントや意見を頂戴した皆様に、この場を借りて、御礼申し上げます。

また、本論中のネイティブチェックは、筆者の長年の友人であるArturo Guajardo氏にお願いした。氏の惜しめない協力を深く感謝の意を表したい。尚、サンプルは、主にインターネット上の新聞・雑誌やコーパスサイト等で採取した用例を、単純化、典型化したものをベースにしている。

WRENCH は、この[forcible turn]に加えて、引き寄せる動き[pulling]と強く連想が働く。他方、WREST は、同じく[forcible turn]に加えて、取り去る動き[taking away]と関連付けられ、その為、しばしば対象物の抵抗感を含意する。また、WRINGは、典型的には雑巾を両手で絞る行為と結び付けられ、動作としては、特定の[forcible turn]、即ち、互いに逆方向になる円運動加力[counter-twisting] がイメージされる（[図3]）。



[図3]

回転運動の加え方に関しては、TWISTとWRING は、急激な加力も、徐々に力を加えていくのも、いずれも可能である(twist suddenly/gradually、wring suddenly/gradually)のに対し、WRENCHとWREST は、ぐっと急に加力する行為とより強く関連付けられることが多い(wrench suddenly/? gradually、wrest suddenly/? gradually)<sup>1)</sup>。これらの違いがどのような振舞いの、或いは、理解の違いとして現れてくるか、TWISTの用例を軸に、詳しく検証していく。

### 1. 1. 回転

まず、対象物そのものに回転が加えられる例から見ておく。

- (1) a. twist the steering wheel to the right
- b. wrench the steering wheel to the right
- c. wrest the steering wheel to the right
- d. ? wring the steering wheel to the right

(1a)は、「ハンドルを右に回転させる[切る]」という行為を描写している。但し、TURNを用いた場合

1) 一般的に（特定の文脈を想定することなく判断すると）、“gradually”との結合には若干の違和感を伴う、ということであり、例えば、「ボルトをゆっくりと締め上げる」という行為は、wrench the bolt graduallyと表現することが可能であるし、また、比喩的な使用として、The battalion gradually wrested the ground from the enemy. というのも充分許容される表現である。

とは違い、TWISTでは加力に関する意味合いが強く感じられる<sup>2)</sup>。WRENCH、WREST共、TWISTに比べて素早く力を加えた動きとして理解されるが、WRESTの方が回転加力に対するハンドルの抵抗感(動きにくい状態にあるのを無理矢理えいっ!と動かすような感じ)を強く含意する。この環境において、WRINGのみ若干の違和感を喚起すると判断される。この違和感は、ハンドルという輪状のものに対して[counter-twisting]の動きを認定することが困難な為と考えることができる。

次に挙げる例は、WRENCHとWRESTの違いを知る上で非常に面白い。

- (2) a. twist her head around
- b. wrench her head around
- c. wrest her head around
- d. ? wring her head around

TWIST、WRENCHの場合は、通常「(彼女が何かを見る為に)自分の頭をぐいっと回転させる[向きを変える]」という動作として理解される。ところが、WRESTの場合は、「(他の人間によって強制的に)彼女の頭をぐいっと回転させる」という情景が強く想起されることになる。これは、WRESTによって含意される対象物の抵抗感との関連が深いと考えられる<sup>3)</sup>。WRINGの若干の違和感の源は、先程の(1d)の場合と同じく、頭と[counter-twisting]の動作との結び付きが弱いせいである。

更に、次の表現を見比べてみると、WRENCHとWRESTの振舞いの違いを観察することができる。

- (3) a. twist a nut hard
- twist a nut loose
- b. wrench a nut hard
- wrench a nut loose

---

2) プロジェクトD(大阪市立大学の岩本真理氏主催で行われている研究プロジェクト; 活動内容及び研究成果については、プロジェクトD(1999, 2000, 2001)、宮畑(2001)を参照)での議論によると、中国語の“拧”は、対象物の回転性によって選択制限があるが(回転の限界点を持たずぐるぐると回り続けるものは不可)、TWIST/TURNの場合は、ドアノブやラジオの(回転式)音量つまみのような回転の限界点を持つものも、扇風機のファンのように限界点を持たないものも、「回転」を与えるという意味において、いずれも問題なく結合可能である(twist/turn the door knob/the volume control/the fan)。しかし、レコードプレーヤーのレコード台や中華レストランにある円卓の回転台のことをturntableとは言っても、\*twisttableとは言わないことを考えると、微妙ではあるが、TURNが純粋に回転そのものに焦点が当てられているのに対し、TWISTの方は、行為自体は回転を与えるにせよ、ぐいっとねじるような感覚を伴っていることを必要としている(これが力の込め具合と相呼応する)ように思われる。

3) ここで問題にしている理解は、文脈の支えを極力排除した形で提示された際、典型的にどのような情景が思い浮かべられるか、というものであり、TWISTやWRENCHで(因みに、TURNでも)他人の頭を回転させるという動作も表し得るし、また逆に、WRESTでも、誰かに頭を固定されているとか、頭が柵に挟まってしまって抜けない、というような状況であれば、自分の頭を回転させて抜く(e.g. She wrested her head free. 尚、この場合、[taking away]が作用していることに注意)という解釈(表現)は可能である。

- c. ?? wrest a nut hard  
wrest a nut loose
- d. ?? wring a nut hard  
?? wring a nut loose

「ナットにぐいっと回転の力を加えて締める／緩める」動作を表すのに、4語のうちのいずれを用いるのが妥当かであるが、どちらの行為も問題なく表現可能なのは、TWISTとWRENCHである。但し、道具名としてのレンチ(wrench)が物語っているように、この行為とWRENCHとの結び付きは極めて強固なものである。恐らく、急激な加力との連想の強さが、その点中立的なTWISTよりも勝るものと考えられる。WRESTは、緩める方は問題ないにも拘わらず、締める方は強い違和感を感じると判断される。これは、WRESTの[taking away]が喚起するイメージによるのではないかと思われる。WRINGは、(1d) 及び (2d) 同様、ナットに対して[counter-twisting]となる行為を想定することが困難な為に、締める／緩めるいずれに関しても否定的な判断が下されることになる<sup>4)</sup>。

最後に、回転を扱う本節のまとめも兼ねて、(4)の例を見ておくことにする。いずれも、「(瓶か何かのねじ切り型の)蓋を回して開ける」という行為を表しているが、それぞれ微妙に描写内容及び力点の置き方が異なる。

- (4) a. twist the lid open
- b. wrench the lid open
- c. wrest the lid open
- d. wring the lid open

4語の中ではTWISTが最も中立的で、従って、最も描写量は少なく、蓋部分にぐいっと円運動の力を加えて開ける、というだけである。WRENCHの場合、回転加力の他に、ぐっと引っ張る力も加わっていることが含意される。WRESTの場合は、回転の加力の他に、蓋を取り去るという意図及びその際の蓋の抵抗感が描写されることになる。また、WRINGの場合には、蓋を開ける際に、一体となった本体(例えば、瓶)と蓋部分を両手で持ち(左手に本体、右手に蓋、或いは、その逆)、それぞれの手(で掴んだ本体部分、または、蓋部分)を相反する方向へ回転させる、とプロセスを分析的に認識し、表現していると言える。

## 1. 2. ねじれ

次に、対象物に回転の力を加えた結果、ねじれを生じさせる用例を見ていく。

- 
- 4) 因みに、2つのナットを互いに向き合う方向に締める(或いは逆に、緩める)という場合でも、WRINGの使用は不自然だと判断される: ?? wring the two nuts hard together. [counter-twisting] の対象物は、同一である(と認識されている)必要があると考えられる。

- (5) a. twist his arm  
 b. wrench his arm  
 c. wrest his arm  
 d. wring his arm

(5a)が描写している動作は、基本的には、「(誰かが) 彼の腕に対してぐいっと回転加力を与える」というものである。この際、「彼」に対して苦痛を与えることを意図して行われると解釈されることを考えると、この回転加力には、対象物に対し通常の形状ではない歪みを生じさせることに力点を置いていることがわかる<sup>5)</sup>。尚、この回転加力は、腕を棒状に伸ばした形で（まっすぐに伸びた腕の骨を回転軸に）行われる場合と、腕を「く」の字に曲げた状態で（肩の関節を回転の中心として）行われる場合のいずれも想定することができる。他の3語も、同じように、“his arm”を目的語として問題なく結合し得るが、WRENCH、WRESTは、ぐっと引っ張るように加力されるニュアンスが追加される以外は、TWISTの場合と同じ状況が思い描かれるのに対して、WRINGの場合は、雑巾を絞るが如く、両手で「彼の腕」を掴み、それぞれの手で掴んだ部分が互い違いの方向に回転するように力を加える、という動作として理解される。それ故、この場合、より一層相手に苦痛を与えるという意図が強く感じられることになる。

体の別の部位を目的語にした次の表現を見比べると、これらの4語が、一連の動作の中のどの側面により着目しているかがわかり、非常に興味深い。

- (6) a. twist an ankle  
 b. wrench an ankle  
 c. wrest an ankle  
 d. wring an ankle

TWISTは、あくまでも回転加力が基本義である為、(6a)も「足首に回転加力によるねじれを与える」、即ち、「足首を捻挫する」の意に解釈される。ところが、WRENCHやWRESTは、基本的に、回転加力+引っ張る動作（WRENCH：[forcible turn]+[pulling]、WREST：[forcible turn]+[taking away]）として想起されるので、足首が何かに挟まれるかして身動きがとれないという状況を想定し、「(捉えられている何かから) 足首を回転を加えながら引っ張り抜いて自由にする」という理解に到ることになる。WRINGの場合は、腕の場合と同じく、[counter-twisting]の動き、即ち、「(苦痛を与える為に誰かが掴み) 足首に対し左右両手を相互に逆方向にねじるように加力する」という行為の描写となる。

(7)の例は、ねじれとは直接関係ないが、(6)同様、4語の振舞い及び解釈の興味深い相違を対比的に示してくれる。

---

5) ここでは、物理的な加力（による変形）に関してのみ問題にしているが、(5a)の表現自体は、この物理的な意味合いから、「強制(強要)」という比喩的な使い方も可能である。

- (7) a. twist a ball
- b. wrench a ball
- c. wrest a ball
- d. ?? wring a ball

TWISTの場合は、「ボールに回転を与える[スピンをかける]」の意であり、WRENCHとWRESTは、いずれも「(誰かが持っている)ボールを無理矢理 [ボールを回転させて引っ張るようにして] 奪い取る」という解釈になる。WRINGの場合は、ボールが[counter-twisting]の力を加える対象として不適格な為、許容度の極めて低い結合だと判断される。

基本的には円運動加力が中心義のTWISTであるが、(8a)のように文脈の支えがあれば、「もぎ取る」や「奪い取る」等の解釈が成立し得る。勿論、WRENCH、WRESTの場合、ぐっという急激な加力の描写が加わった「もぎ取る」、「奪い取る」という行為として理解される。WRINGの場合は、各々の行為に[counter-twisting]の動きを想定することが、不可能ではないにせよ、あまり普通ではなく、その為、若干の違和感を伴う表現と判断されることになる。

- (8) a. twist an apple off the branch/the gun out of his hand
- b. wrench an apple off the branch/the gun out of his hand
- c. wrest an apple off the branch/the gun out of his hand
- d. ? wring an apple off the branch/the gun out of his hand

### 1. 3. 圧搾

この意味は、TWISTに関しては、1.2.で取り上げたねじる行為の一種という程度の位置付けとなるが、WRINGの基本義と密接に関連する為、便宜上、別項として論じることにする。

まず、(9)を見てみよう。4語いずれも“a wet towel”と問題なく結合するが、これらの理解の相違に注意を払う必要がある。

- (9) a. twist a wet towel
- b. wrench a wet towel
- c. wrest a wet towel
- d. wring a wet towel

TWISTとWRINGは、「濡れたタオルを絞る」の意に解される(同じ「タオルを絞る」行為でも、TWISTの場合は手の回転加力に焦点を当てているのに対し、WRINGの方は、左右それぞれの手が互いに逆方向に回転加力を与えているという部分に注意が向けられている)のに対して、WRENCHとWRESTとは、「(誰かが持っている)濡れたタオルを無理矢理に奪い取る」と解釈される。その為、(10a, d)は許容されるのに、(10b, c)は容認されない表現となってしまうのである。

- (10) a. twist water out of the towel  
 b. \* wrench water out of the towel  
 c. \* wrest water out of the towel  
 d. wring water out of the towel

このタオル等の布類を両手で互い違いの方向に回転させて水気を絞り出すという行為は、WRINGの最も典型的なイメージであり<sup>6)</sup>、この連想の強さはまた、wringerというのが「(旧型の洗濯機についてい

- 6) この圧搾という意味において、WRINGは、SQUEEZEと極めて近似していると言える。前出の(9d)、(10d)に対応する用例は勿論のこと、

wring a wet towel	squeeze a wet towel
wring water out of the towel	squeeze water out of the towel
首を絞める [殺す]	
wring the neck	squeeze the neck
顔をしかめる	
wring the face	squeeze the face

等、きれいに呼応する(因みに、「顔をしかめる」の意で、twist the faceは可、\*wrench/\*wrest the faceは不可。WRINGの場合、布を絞る際のよじれとしかめた顔の歪みとがイメージとして重なる。TWISTは、人間の顔を(楕)円と見立てた場合、唇から頬にかけての円弧の動きによって生じる歪みがスキーマとして合致するものと考えられる。WRENCH、WRESTは、その対象物“the face”が、それぞれ[pulling]、[taking away]と整合性を持たない為、却下される)。

更に、比喩的な用例でも、

白状させる [告白を「絞り出す」]	
wring a confession	squeeze a confession
搾取する [お金を「絞り出す」]	
wring money from the poor	squeeze money from the poor

という具合にぴたりと一致する。しかしながら、加力のイメージが、WRINGが回転なのに対し、SQUEEZEは直線的である点が異なり、

大勢の人をバスに押し込む	
?? wring many pepole into the bus	squeeze many pepole into the bus
人込みの中を押し分けるようにして進む	
?? wring the way through the crowd	squeeze the way through the crowd

という振舞いの相違が観察される。



た)洗濯物をローラーで挟んで水気を絞る装置」を意味することからも、窺い知ることができるだろう<sup>7)</sup>。

#### 1. 4. 比喩的用例

最後に、“the fact”を目的語に取った比喩的な用例の解釈を取り上げておく。

- (11) a. twist the fact
- b. wrench the fact
- c. wrest the fact
- d. wring the fact

TWISTが回転加力によりねじれを生じさせること、WRENCHが回転加力と共にぐっと引っ張る動作であること、WRESTが回転加力と共にぐっと取り去る動きであること、そして、WRINGが回転加力により(水気を)絞り出す行為であることを思い描けば、それぞれ妥当な理解に到達することが可能である。即ち、(11a)は distortion (真実の曲解、歪曲)、(11b)は extraction (真実を「引き出す」という感じ)、(11c)も extraction (真実を「取り出す」という感じ)、(11d)も同じく extraction (真実を「絞り出す」という感じ)と解されることになるのである。

#### 2. 周回運動のTWISTとTWINE

周回運動を表すTWISTとTWINEは、極めて近似した状況を描写するのに用いられ、いずれも大別して3つのパタンが観察される。ひとつは、対象物に対して巻き付く動きである<sup>8)</sup>。

- (12) a. twist a rope around the tree
- b. twine a rope around the tree

2つ目は、この巻き付きのイメージが反転複写されたものと考えられる相互巻き付きのスキーマである。

- (13) a. twist strands together (into a rope)
- b. twine strands together (into a rope)

---

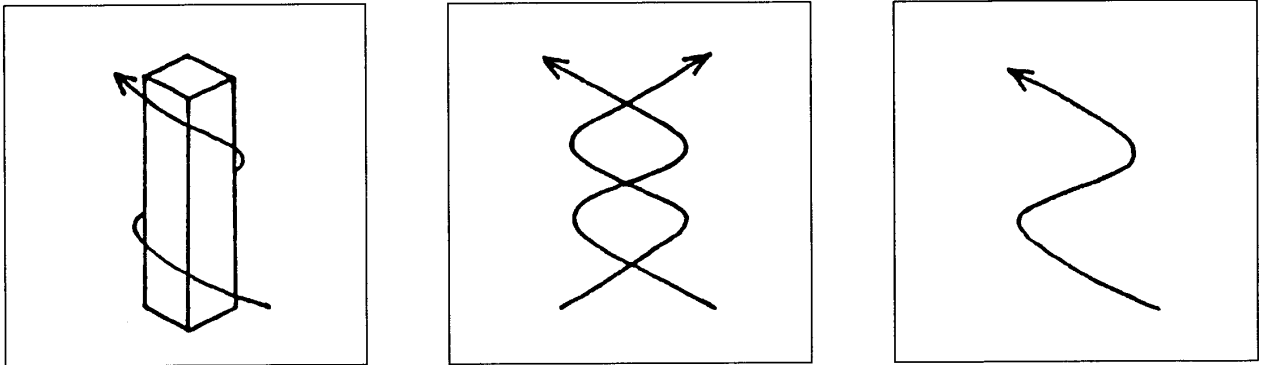
7) 但し、この場合、「従来両手で水気を絞っていた作業」の「代わりにやってくれる機械」というメトニミーの作用による変換が行われており、その際、両手による互いに逆方向への回転加力という部分は後景へと追いやられて薄れてしまっている。

8) (12a, b)共に、木の回りに1周だけロープを回す行為 (a single twist/twine)も、何度もぐるぐる巻きにする行為も、いずれも表現し得る。前者のスキーマを基本とし、その連続したパタンが後者だと考えることができる。

最後は、巻き付きの移動軌跡が投影された蛇行(S字移動)のスキーマである。

- (14) a. twist the way through the field
- b. twine the way through the field

それぞれのスキーマは、下のように提示できる(左から順に、巻き付き、相互巻き付き、蛇行の各スキーマ)。



[図4]

しかしながら、この2語が、微妙なニュアンスも含めて意味的に完全に合致するという訳ではなく、例えば、(14)では、TWISTの場合は直進を妨げる障害物が点在しており、右へ左へと大きく[ぐいぐいという感じで] 進路を振りながら進んでいく様を表すのに対し、TWINEの方はもっとゆったりした、ある意味であてどなくぶらぶらとした[あっちへ行ったりこっちへ行ったりという感じの] 進行を意味する、という差異がかなりはっきりと意識されるようになる。これは、TWISTの基本義である[forcible turn]を考えれば、納得できる。つまり、TWISTは、TWINEとは違い、その動きにはforce感が伴い、これが上のような理解の違いとして反映されている、という訳である。このforce感の有無は、次のような文脈において、より一層はっきりと振舞い方の相違として現れてくる。

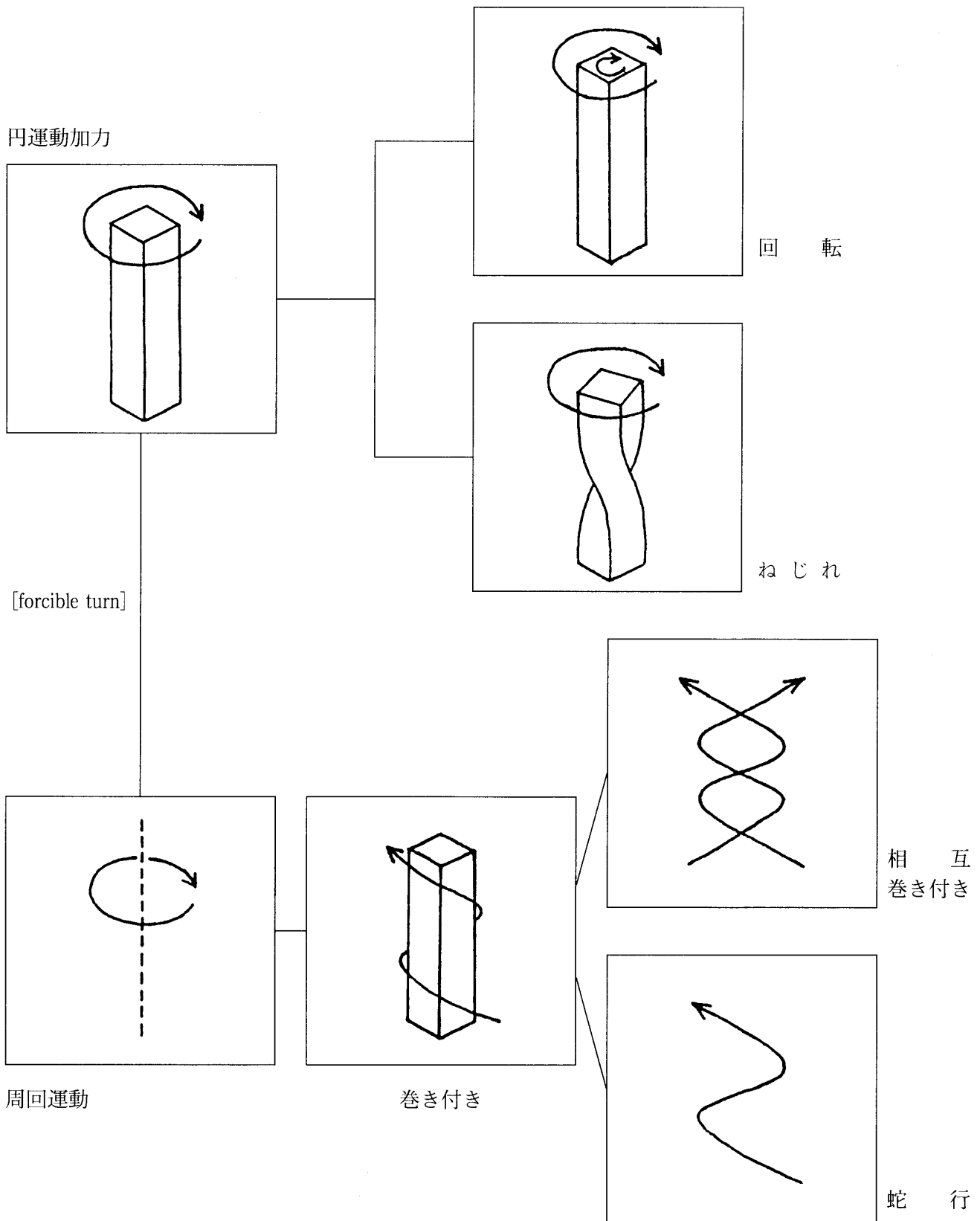
- (15) a. ?? They are walking with their arms twisted together.
- b. They are walking with their arms twined together.

TWINEの場合は、「腕を互いに組んで」という意味に解釈可能であるが、TWISTを用いると、そこには何らかの力の存在(お互いに腕を組んだ状態で、ぐっと引っ張り合うような状況)を想定する必要性が生じ、その為、一般的には極めて許容度が落ちることになる。

### 3. まとめ

まず、TWISTの全体像を整理しておく([図5])。TWISTの基本義は、力を伴う円運動であり、この[forcible turn]を共通項に、円運動加力と周回運動という2つのスキーマが観察される。対象物に対して円運動の力を加える円運動加力のスキーマは、対象物の特性により、回転、若しくは、ねじれと

いう変化を伴って発現する。一方、軸を中心とした円運動のスキーマは、大別して、対象物への巻き付き、相互巻き付き、蛇行という3つのバリエーションとして現れる。これらの3つは、巻き付きのスキーマを中心とし、それぞれ反転複写、転写され、認知的にリンクしているものと考えられる。



[図5]

WRENCH、WREST、WRINGは、円運動加力という点ではTWISTと類似しているが、いずれもより特定の動作を表す。WRENCHは、[forcible turn]に加えて、引き寄せる動きと関連付けられ、しばしば急激な加力との連想が働く。WRESTは、[forcible turn]に加え、取り去るという行為と強く結び付けられ、また、急に力を加える動作として想起される傾向にある。WRINGは、雑巾絞りに代表されるような[counter-twisting]の行為として特徴付けられ、(同一)対象物の2つの部位に対して互い違いの方向になるような円運動の力を加える動作として捉えることができる。これらの違いは、様々な文脈において、理解の相違や振舞い方の差異として現れてくる。

TWINEは、周回運動系の巻き付き、相互巻き付き、蛇行という3つのスキーマにおいては、TWISTとほぼ同義と考えてよい。但し、TWISTの方には、TWINEにはないforce感が伴い、これが解釈における微妙なニュアンスの差を生んだり、或いは、振舞い方の違いとして現れる。

## 参 考 文 献

- Hayakawa, S. I. 1987. *Choose the Right Word : A Modern Guide to Synonyms*. New York : Harper & Row. (Rev. ed. of : *Funk & Wagnalls Modern Guide to Synonyms and Related Words*. 1968.)
- Levin, Beth. 1993. *English Verb Classes and Alternations : A Preliminary Investigation*. Chicago : University of Chicago Press.
- 宮畑一範. 2001. 「動作動詞の中英対照研究——捏・掐とPINCH」『英米言語文化研究』No.49. pp. 55-69. 大阪府立大学英米言語文化研究会.
- プロジェクトD. 1999. 「中国語動作動詞の研究 (1) 捏・掐」『中国語研究』第41号. pp. 18-40. 東京 : 白帝社.
- プロジェクトD. 2000. 「中国語動作動詞の研究 (2) 握・攥」『中国語研究』第42号. pp. 42-52. 東京 : 白帝社.
- プロジェクトD. 2001. 「中国語動作動詞の研究 (3) 抓」『中国語研究』第43号. pp. 46-59. 東京 : 白帝社.